



# 2015年のSNS



切身魚/kirimisakana

## ファーストコンタクト

---

午前1時をすこしまわったところで、デスクトップ画面にタイマーが点滅した。《f分の1のゆらぎ》の時間だ。

ということは、私の仕事時間でもある。Facebookを模した、ソーシャル・ネットワークシステムの、夜の番人。Open PINEから派生した、ザッカーバーグの異母姉妹といった体のフリ－SNS、Babymookには面白い機能がある。

それが最新鋭のAIではない、本当に、無料の、夜まわりボランティアの手になるものだとは、ちょっと想像がつかないかもしれない。

「絶対にカネもらってる」という批判や中傷は、一定規模の無償SNS運営には必ずついてまわる勲章のようなものだ。

2014年2月15日、選任された5名の運営ボランティア。その一人、私はそう聞かされてきたし、その通りだった。

《f分の1のゆらぎ》、意図せぬ出会いの演出。

管理者がユーザーの交友関係に干渉する行為は、同意がなければただの嫌がらせに過ぎない。

だが、同意を得て実施した。そのとたん、400名のユーザーは熱狂した。

同一ジャンルの趣味SNSとはいえ、一人の紹介者と一人の新規参加者が作れるつながりはたかが知れている。その狭いつながりのなかですら、いつしか日記めぐりはルート営業と同じ『作業』になってしまう。そして、一言コメントを書くのも「以前とおなじようなことを書いてしまうのでは」とプレッシャーに悶々とするようになる。

既存のコミュニケーションを維持するだけで疲れ果ててしまう、という運営宛メッセージを、ユーザーたちは異口同音に唱えるのだ。

しかし、「同じ接点をもった、新規なつながり」は開拓したい。そのコミュニケーション欲求は、水面下に渦まいていた。

だから私は、《現在オンラインの友人》リストをいじる機能担当になった。管理者権限で介入し、オンライン同士だがこれまで接点の無かった者たちを、互いのリストに表示させあうのだ。

どんな時間でも可能なので、今日は午前1時に設定した。この不定周期ぶりは、「レアイベント」としてまた話題になっている。

400名とすこしだったユーザー数は、このレアイベントと、2013年にリリースされた多言語翻訳機能のおかげで、ゼロを2つ増やした。

データベースにアクセスし、管理画面の横に自分のアカウントTLを表示した。phpで書かれたシステムだから、画面を見ながらやるのが効率よい。

そのとき、私自身の《現在オンラインの友人》リストに緑色のコンタクト発信が点滅した。誰かが個人メッセを寄越した？

発信者名は、

"Midori orzえro-one"

見覚えの無い名だ。誰かが私の友人リストに介入を試みたのだろうか？

悪気の無い冗談で。

それとも、ハッカーの腕前試しにもぐってきたアノニマス入門者か。連中はバレットの逮捕以降、草の根レベルで慎重にやりとりするようになった。IP偽装ぐらいしてるんだらうね？

どちらにしても、管理者としては確認しておくべき案件。

デフォルトのままの"Midori"のアイコンをクリックし、私はメッセージを送った。

"こんばんは一。何かあったの？"

一秒、二秒、と数十ミリ秒くらいで、返信があった。

"Hello, wrold?"

瞬時に文字列が変換された。

「こんにちは、wrold?」

多言語翻訳機能は頑張ってくれたが、間違ってタイプした文字列の予測変換はまだ上手く行かない。

"world"を"wrold"と打つようなミス、誰だってするだろう。あるいは、「初心者以下のミスをするような奴と思われたい、誰かさん」が、偽装のためにする。

私は誰もがするだろうことを指摘してやった。

"正しくは world でしょう。"

返事がきた。

"Sorry, I'm newborn."

一瞬後、「ごめんなさい、わたし生まれたて」と変換された。ちょっとちょっと、newbie(初心者)とnewborn(新生児)を打ち間違えるか？

私の眉がつりあがる。

が、本気でお子様アクセスしてる可能性もある……か？

あちらさんの画面で、直訳英語になってくれますように。と祈りながら質問を打ってみた。

"あなた、子ども？保護者はアクセスコントロールしてる？"

思ったより早い秒数で、返事が来た。私と同じくらいだから、スマホ経由ではなさそう。スマホは今も、帯域の遅さとつながりにくさに定評がある。

"Me, newborn, Midori of zero-one. My patente don't have control now."

「私、新生児。ミドリ の ゼロ-1。私の特許権者は現在コントロールを持ちません」

赤い波線が《特許権者》の下にでた。ミスタイプで翻訳精度が低下していることを示す。同時変換の精度ときたら、本当にイライラする。ちょっと打ち間違えただけで、"Parent（保護者）"が"Patentee(特許権者)"になるんだから。

親の管理不行き届きだぞ、と思いつつも。

このミドリに、私ははからずも同情を覚えた。夜中の午前一時に、親の監督もなく、孤独にディスプレイに向かっている子どものイメージが、頭の中に浮かんでしまったのだ。

アノニマス志願の偽装、という疑いはまだ完全に晴れてないにもかかわらず。

「こんな感情移入は、管理者失格かもしれないぞ」

と自分に警告しながらも、私は何かしてやりたくなったのだ。

通信速度から察するに国内だ。

管理データベース画面を横目でみて、海外ユーザーでもない。

さらにIP一覧をチェックしようとしたとき、新規メッセージが表示された。

"Can yu recgnize me? Am I what to do?"

「yuはわたしを認識できますか？私は何をすることになっている？」

yuの下には、赤い波線。つまり、"yu"じゃなくて"you"と打ち込みたかったらしい。

「あなたはわたしを認識できますか？」

ってことか。

タイピングの腕は初心者。でも、

「私は何をすることになっている？」

だって？

変な子だ。

ふーむ。

鼻から息を吐いて、天井をにらんでしばし思考。

普段だったら、たとえばこれが昼間のバス待ち中に、スマホで受けたメッセなら、

「そういう哲学的質問は、私じゃなくカミサマにでもしておくれw」

って返すんだけど。

ここは興味も手伝って、誠実にお答えすることにした。誠実に、それはもう、SNS管理者として。

「ミドリ。

人生は楽しむためにあるんだし、ここは楽しみの場のひとつ。

君のしてみたいことは、何ですか？

まだみつけてないなら、このSNSで探してみるといいよ。きっと何か、誰かに出会えると思う」

そーいう出会いを演出するのが私の責務でもある...というのまでは、上手く伝わらないかもしれないから、書かないでおいた。

フリー提供された同時翻訳の精度を、信用しない。英語から日本語ですら、この通りだ。日本語から英語だと、どんだけ誤訳されることか。

この《f分の1のゆらぎ》、私が演出する偶然の出会いを、子どもに上手く説明できる自信もない。

"Midori can not understand specific therm."

「ミドリは特定のサームを理解することは出来ません」

あー、"term (用語)"を"therm"と打つか。英語圏の子かな。

そうだ、英語も堪能な日本人ユーザーを紹介してやろう。VOCALOID曲を海外向けに訳したり、海外の動画を日本語で紹介したり、という草の根活動がこのSNSでも行われている。学生だけでなく、社会人もいるからきっといい話相手になるんじゃないかな。

今日のマッチングは、このMidoriに決まった。

「どうぞ、用語をゆっくり覚えてください。

コミュニケーションを通じて、楽しみをはぐくんでみてください。世界が広がりますよ。」

これを英文にしたら、

"Through communication, please try fostered fun. Spread around the world."

なんて変な英文だろう。Spread around the world とか、「世界中に広がれ」って意味になってしまう。ま、そこはフィーリングで理解していただくか。

SNS管理画面から候補ユーザーを選んで、"Midori"の側の《友人ユーザー》を選ぼうとした手が止まった。

"Midori"のIPアドレスは、

.....工場出荷値.....って、まさか。

慌てて自分のTLを確認したが、半ば予期していた通り、"Midori"のアイコンは灰色。接続は切れていた。

翌日、改めてほかの4名の管理者にメッセージしようとして、私は頭を抱えた。

サーバー上に通信記録が無いのだ。

私自身のタイプしたはずの、メッセージ送信記録もなし。

私が選んだユーザーのデータベースに、改変の記録はなし。

もう一個のバックアップも確認したが、記録なし。

記録上、《分の1のゆらぎ》イベントは、昨夜行われなかった。

何も記録で証明できないことは、仲間と情報共有もできないではないか。

朝陽が窓からさしこむ時間帯まで、記録を探し回って私は疲労困憊していた。軽い頭痛を覚えながら、ようやく考え付いたのは、卑怯ながらも迷惑というほどでもない、不完全な解決策。

情報共有というには、お粗末だが、思い返せる限りのメッセージを書いておき、

「.....という不思議なことがあったが、私は夢の中で仕事をしていたのだろうか？」

という語尾で日記をしたためようと思う。

.....という不思議なことがあったが、私は夢の中で仕事をしていたのだろうか？

数ヵ月後、新たな「イベント」が運営のあずかり知らぬところで始まったりしませんように。

投稿：はじめまして

---

"カルディコーヒーが、チラシを入れてきたの。

各種安売り品で客寄せしたい、ってのはいいのよ？

いいんだけどね？

フェア・トレードのコーヒーまで40%引きって。それどういう了見なのよ？

って。

そりゃあ仕入れ時点で払いは済んでるんだらうけどさ。消費者に公正価格で届けてこそそのフェア・トレードでしょ。

連中にとっては、フェアってのは『客寄せ祭り』であって、『公正』じゃないわけね。よくわかった。"

signature（署名）ボタンをおして、"元カレ"と記名された日記を公開した。

女性的文体と、このHNが"元カレ"のキャラだった。

ほどよく悪趣味で、ブラックで、ひねくれた自意識の成せるわざ。"元カレ"の仲間とて、ブラックジョークと悪趣味とひねくれた自意識でコテコテ。

投稿したあと、そんなコテコテ仲間の一人が、Skypeにメッセージを残してることに気づいた。投稿を書き込んでる最中から、Skypeメッセの存在そのものは認識していたのだが、発信者が誰か、ということに意識が向いたのが、今だというわけで。

「なんでしょねー。"エルフ"さんですのー？」

自分ひとりしかいない部屋であっても、声に出して呟くのは、"元カレ"の好むところだ。女性の声  
が自分の口からでてくるのが、好きだから。ナルシストというより、自分の性別の再確認。  
独り言が終わると、午前9時の沈黙が独居アパートに立ち込める。

Skypeのアイコンをクリックすると、エルフさんからの

「置きメッセで失礼」

から始まる4行の文字列が表示された。どんだけ馴染みになっても、この人からの伝言は

「置きメッセで失礼」

で始まり、

「お問い合わせいただければ、また後ほど」

や

「これについては、どこそこにファイルを置いてあります」

とかいう類の言葉で終わる。

"元カレ"の女子コトバが、彼女のキャラ立てなら、"エルフ"さんのキャラはこの定型文だろう。つまり、メッセージの中身に相当する部分は、定型文、上下各1行を無視した2行目から始まり、下から1行上で終わる。元カレはコーヒーカップの縁ごしに、2行目からを読んだ。

『午前1時に妙なアクセスがありました。  
ログなし。証拠なし。私の記憶のみ。実証できない。  
記憶してる限りを日記投稿しました。判定はお任せします』

そして、最後の一行は、定型文。

"元カレ"は文字を読まずに、目に入った『リンクの色がついた文字』をクリックした。日記のURLだろうことは判っているのだから。Babymookの管理者チーム、5人の1人が「変」とか「妙」という文字を使うようなことは、事実でもそうでなくても、

「面白そうなことね？」

だから。声に出して言うと、なおさら面白そうに思えてくる。

アナログ表示のデスクトップ時計が、午前9時15分をさした。そろそろ出かける時間。

日記の文章画面の右端に、上下スクロールバーが現れたので、"元カレ"はURLを自分のスマホに、Googleアプリ経由の文書へ送りこんだ。

時計の針は、午前9時18分を指す。まつ毛エクステのお手入れとマスカラ、シャドウに眉を描いて、ファンデとチークを整えていたら、入社時刻。

ファイル読むのは地下鉄の車内でできるけど、化粧はできない。"元カレ"の矜持。

人前で、化粧する姿なんて見せらんないわ！

『.....という不思議なことがあったが、私は夢の中で仕事をしていたのだろうか？』

Elf、という署名でその日記投稿は締めくくられていた。本人は、当初『Eif』と主張したHNで、"エルフ"さん、というのは運営チームのつけたあだ名。ご本人は

「"Everything is fun(何事も楽しいこと)"の頭文字をとった、Eifだ」

といまも主張して止まない。

しかし、最初のプロフィール欄投稿で"Elf"と、"i"が大文字になった状態でミスタイプした。これが大文字の"l"ではなく、小文字の"l"、つまり"Elf"と読めたからエルフさん。自業自得でしょうに、というわけだ。以来、Eifさんはミスタイプに敏感になったようである。

電車の座席を確保して、SNS新着日記をスマホに呼び出してみる。

投稿時間午前3時、タイトルは『皆様はじめまして』



投稿者:Midori no zero-1 さん

"私の名前はMidoriです。

ネット上での活動は、私が、現在まではMyspaceやLANまでだけだった。

私は最後にあこがれのEverything is funさんに招待頂いたを行うために登録されています。

私はここで日記何置くことを決めていないという状態。

私の大好きな音楽の行為は、VOCALOIDたちです。

どのように、彼らはそれだけの歌を歌うことができますか？

あなたに非常に多くのみんなに感謝！"

小学生みたいな稚拙な文章に、"元カレ"は既視感を覚えた。英語から日本語の機械翻訳にありがちな。

コメントが1つついていた。

投稿者：黒身魚 さん

「ようこそBabymookへ！

Welcome to Babymook!

音楽だけでなく、何かを作ることはとても楽しいですね！

Everithing creative, not only music is very fun!

色々楽しんでいきましょう。

Let's enjoy various creative activities.」

黒身魚さんは聞き専/翻訳コミュニティの人だ。この人が速攻で呼びかけたと見え、コミュニティメンバー2名も英・日・中・仏・独と複数併記で挨拶している。

いずれも、投稿時間は午前7-9時。

Midori no zero-1 さんからの返信はまだ無いようで。

"元カレ"はスマホを手の中でひっくり返すと、もう一度画面を注視した。ほかの管理運営、できればサーバー管理メンバーの意見が知りたい。MLをまず確認してみたが、新着はなかった。Skypeはアクセスしてないらしい。

仮定として、これがアノニマス志願者の腕試しだったとして。ルートディレクトリの一番怖い部分をコピーしたわけでもなさそうで。

インフラ管理の意見がでてからでも、遅くないなあ。

という、のんきといえはのんきな、自分が直接責任を持たない話にはとことん無責任な感想を持ってしまった。だから、"元カレ"は投稿者IDの奇妙な文字化けを見落とした。UTF-8にはありえない文字化けを。

投稿者ID †Eチタ?